

# 平成29年度第6回パートナーシップのまちづくり推進会議次第

平成29年12月15日（金）  
午後6時30分から  
茅野市役所 8階 大ホール

## 1 開会

## 2 会長あいさつ

## 3 会議事項

### (1) パートナーシップのまちづくりの更なる充実に向けて

#### ① 各部会の検討経過について 「18:40」

・分野別部会「10分」 【資料1】

・コミュニティ運協部会「5分」 【資料2】

#### ② 茅野市パートナーシップのまちづくりへの想い（ビジョン） 「18:55」

・市長が描く茅野市のビジョン「10分」

・意見交換「20分」

#### ③ パートナーシップのまちづくりを進める上で大切なこと、コミュニティ運営協議会の活動を進める上で大切なこと（戦略キーワード）

「19:25」 【資料3】

・グループワーク（8人×7グループ）「30分、5分考え+25分意見交換」

・グループ発表（2分×7グループ+α）「20分」

・キーワードについてまとめと意見交換「20分」

#### ④ 今後に向けて「10分」 「20:35」

### (2) その他

## 4 閉会 「20:45」

## パートナーシップのまちづくりの更なる充実に向けての検討経過について

### 第 1 回推進会議（平成 29 年 7 月 19 日）

#### 【目的】

住民自治の実現を目指して、茅野市のこれまでのパートナーシップのまちづくりの取組を踏まえ、今後 10 年・20 年先を見据えたとき、時代の変化の中で更なる充実に向けてどんなパートナーシップのまちづくりの取組が必要になるか、市民と職員が一緒に考え、協働して方向性を導き出す。

#### 【議論の方向性】

- ①より良いまちづくりに向けたしっかりした議論
- ②協働関係のあり方についての議論
- ③分野別とコミュニティ運協に分かれた議論
- ④地区ごとの運協体制づくり

今後は分野別とコミュニティ運協に分かれ更なる充実に向けて検討する

## 分野別部会の検討経過のまとめ

### ○開催経過

- ①日 程 : 第 1 回 平成 29 年 8 月 22 日 (火)  
 第 2 回 平成 29 年 9 月 12 日 (火)  
 第 3 回 平成 29 年 10 月 13 日 (金)  
 第 4 回 平成 29 年 11 月 7 日 (火) } 全 4 回
- ②参集者 : 委員 12 名、分野別関係団体関係者 (2・3 回)、分野別関係職員

### ○分野別部会の話し合いの目的

パートナーシップの更なる充実に向けてどのような取り組みが必要になるかを導き出す。

### 第 1 回分野別部会（平成 29 年 8 月 22 日）

#### 【検討内容】

「パートナーシップのまちづくりの更なる充実に向けて」の検討方法について話し合う。

【検討方法】 グループワーク＋全体討議

## 【今後の内容及び検討手順】

- ① パートナーシップのまちづくりの確認と理解(定義付け・共有)
- ② 変化の状況を知り、成果と課題をふりかえる(これまでのふりかえり)
- ③ 茅野市が目指すパートナーシップのまちづくりの目標と理想像の明確化
- ④ 役割分担
- ⑤ 対話
- ⑥ 情報の提供と共有

## 第2回分野別部会（意見出し）（平成29年9月12日）

【検討内容】 パートナーシップのまちづくりの確認と理解（定義付け・共有）

【検討方法】 グループ討議

### 【グループ①】（福祉・環境・子育て分野）

- ・課題について市民等と行政と一緒に考え、課題と目標を共有することが大切
- ・ただ与えられるだけでなく自分達が自分達の問題として考える機会が大切
- ・主体的に関わることで、自分達でやっていこうという責任が持て市民活動が継続していく。
- ・最近では市民等と行政とのコミュニケーションが上手く取れていない
- ・市民等と行政の信頼関係から始まり、協働が生まれるが、その信頼関係が築かれていない
- ・本日だけではパートナーシップのまちづくりの確認と理解の共通認識まで出来ていない、次回の成果と課題のふりかえりの中で更に議論をする

### 【グループ②】（情報・国際・施設運営分野）

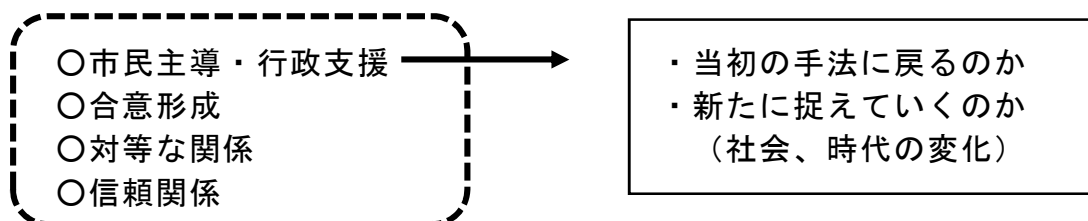
- ・条例第3条「まちづくりに市民が主体的に関わり、市がそれを支援し、公民協働ですすめるまちづくり」が基本である。この3条を重視し、市民が主体的にやるということを確認し、行政は支援の体制整備を進めて行く
- ・永くやっている中で、市民と行政の合意形成ができなくなっている。
- ・推進会議はパートナーシップのまちづくりについて市民と行政が対等に話す会議となるべき。推進大会のための会議ではない。
- ・パートナーシップのまちづくりの手法による市民活動団体は沢山あるし、若い人が参加するためのアプローチも行政に必要。
- ・現市長の理想（想い・考え方）とするパートナーシップのまちづくりの基本的な方向性を示して欲しい。

## 第3回分野別部会（意見出し）「平成29年10月13日」

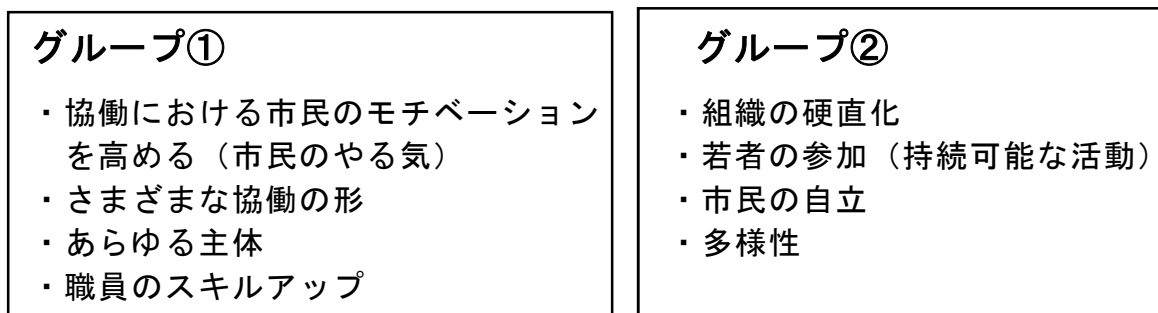
【検討内容】 変化の状況を知り、成果と課題をふりかえる  
(パートナーシップのまちづくりの確認と理解も含めて)

【検討方法】 グループ討議＋全体討議

### 【共通のキーワード】



### 【個別のキーワード】



#### ※市長さんに聞きたい

・パートナーシップを使ってどういうまちづくりをしたいのか

### 【グループ①】（福祉・環境・子育て分野）

#### 1 行政と市民の考え方のズレ

##### (1) ズレている点

##### ①パートナーシップの捉え方

- ・どこを目指して行くのか、最初の形に戻るとは？
- ・当時のパートナーシップのまちづくりの捉え方は？ ⇒ お互いに確認
- ・補助金交付も協働でありパートナーシップの形は様々ではないか
- ・一緒に話し合う場があるのが茅野市の一番の特徴
- ・行政は市民のモチベーションを高める役割を

##### ②市民主導・行政支援の捉え方

- ・市民主導・行政支援の捉え方が市民と行政では異なるのでは？

##### ③対等な関係の捉え方

- ・立場は違っても対等（行政が何でも言うことを聞く訳ではない）

#### ④言葉の定義

「パートナーシップ」と「協働」は同じではない

パートナーシップ ⇒ 関係性

協働 ⇒ 手段（共に動く）

#### ⑤合意形成のあり方

- ・当初は課題を一緒に考えるところから取り組んできた。
- ・現在はコミュニケーションが足りない場面がある
- ・結果として市民の想いがかなわないこともあるが、プロセスが踏まれているかが大切
- ・合意形成が少ない場面はあるが行政だけの責任ではないのでは？
- ・市民等も行政も合意が無ければ動けないという訳ではない
- ・パートナーシップで一番大切なのは合意形成

### (2) ズレの要因

#### ①パートナーシップのまちづくりを理解している職員が少ない

⇒ 研修会も大事だが実際に携わって身につくものである

#### ②会議の進め方

- ・素案（たたき台）を行政から出すことは良いことか？  
⇒ 市民は意見を言えなくなってしまう  
市民にとっての判断材料である「基礎情報」「論点情報」がない  
⇒ 新しいことはまず議論する前段階が必要である
- ・20年間積み重ねた実績を基に出される素案（たたき台）もある
- ・原案を一緒に作るから意見を言い合えるし、市民等のやる気に繋がる

#### ③どちらがズレてきたのか

市民側は一貫して変わっていない。行政側が変化してきている。

#### ④さまざまな協働の形を意識して、それぞれの活動を整理する必要があるのでは（行政の協働の関わり度合「5段階」）

## 2 変化の状況を知る（成果と課題をふりかえる）

### (1) 変化の状況

- ・たくさんのパートナー（あらゆる主体）と取り組むという考え方も出てきている
- ・そもそも、みんなとパートナーシップを組んでいるのではないか  
⇒ 会議に出てくる人とだけではない
- ・協働にはいろんな形があることを前提に
- ・活動が成熟してきた、最後の20%が大変、80%の部分をパートナーシップのまちづくり手法で再考することも必要
- ・20年の経過の中で職員が主体的に出来ることもある

### (2) 成果

- ・市民が自分たちでまちづくりに関わる意見を言い、話し合いをする経験ができた
- ・他の市町村ではこんなにまちづくりに関わる事が出来ないこともある

### 3 その他

- ・今までは市の職員は黙って会議を聞いているスタンスであったが、同等の立場で参加し、意見交換をする必要がある

## 【グループ②】（情報・国際・施設運営分野）

### 1 パートナーシップのまちづくりの確認と理解

#### (1) 何が主体か 市民主導・行政支援（第3条）

- ・市民が主体である
- ・行政主導だったが途中から市民が主体的に関わる取組もある
- ・20年前から社会も変化してきている。今この言葉で良いのか

#### (2) 市民等と市の信頼関係（第5条）・合意形成（第9条）

- ・信頼関係とは → 忌憚のない意見をお互いに出し合える  
→ 何でも要望を聞くのが信頼ではない
- ・夢を語る部分がなく、市の方針が決まっていることもある

#### (3) 市長の考え方を聞きたい

- ・どういう市を目指すのか共有できていない、パートナーシップのまちづくりの手法を用いてどういうまちづくりをしたいのか

#### (4) その他

- ・全ての課題をパートナーシップのまちづくりの手法で解決する訳ではない
- ・市民が自立して考え行動する → 住民自治
- ・パートナーシップのまちづくりの必要性について議論されたことがない
- ・市民の声を聴くことをやめたらまちづくりはできない
- ・穴埋めではなくより良いまちづくりのための参加がパートナーシップ

### 2 変化の状況を知る（成果と課題をふりかえる）

#### (1) 成果

- ・代表の代替わりが出来ている、会が自立できている
- ・当初より活動が枠を超え広がってきている

#### (2) 課題

- ・活動者の高齢化
- ・永い活動者の想いに異動職員がついて行かれない
- ・勢いが衰え（情熱が減って）できており、方向性を考えていくときか
- ・若いメンバーはやる気はあるが機会がないとまちづくりに関われない
- ・ビジョンが明確になると若い人も参加の機会を考えることができる
- ・成果と課題・危機感が見えると参加することもある『わくわく』か『やばい』

#### (3) 何が必要か

- |             |            |
|-------------|------------|
| ・会の自立       | ・みんなの力     |
| ・自立のための行政支援 | ・達成感       |
| ・重荷にならない運営  | ・多様な選択を認める |

## 第4回分野別部会（意見出し）「平成29年11月7日」

【検討内容】 茅野市が目指すパートナーシップのまちづくりの目標と理想像の明確化（パートナーシップのまちづくりの確認と理解、成果と課題をふりかえるも含めて）

【検討方法】 全体討議

### 1 パートナーシップ（協働）のあり方

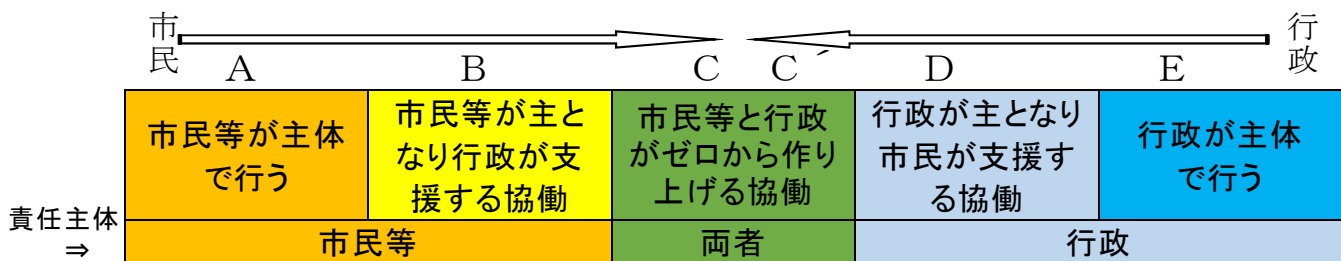
#### ○「パートナーシップ」と「協働」の捉え方

「パートナーシップ」と「協働」は同じではないのでは

パートナーシップ ⇒ 関係性（信頼関係・対等な関係）

協働 ⇒ 手段（実際に事業を実施する時の形）

#### ○協働の関わり度合（5段階）



#### ○パートナーシップのあり方は2つ

①主語が **行政** 行政の効率の良さ考えて 「D 又はC' も」

②主語が **市民等** 白紙(ゼロ)からのスタート ⇒ 何もプランがない状態で意見を出し合い積み上げていく。

「B・C」 ↓ 「C」

茅野市はここから始まっている → 放っておけば①になってしまう  
これを表した言葉が「市民主導・行政支援」

・白紙からのスタートは全ての事業で必要か？

市民等と行政の間で **合意形成** があれば不要のときもある = 「C'」

↓ P 2 A 参照

・全ての事業が協働という訳ではない

↓ でも、計画(プラン)作りは協働ではないか

・行政の課題であっても市民に投げかけ、

↓ 市民が主体的に動けば市民主導の協働

『市民主導、行政支援』は解釈を広げていく

・常に確認が必要 → パートナーシップのまちづくり推進会議で毎年確認を行っていく。

## 2 市民等と市の関係

### ○対等な関係

- ・私たちは色々と声を大にして発しますが行動もします。だから行政としても応援して欲しい。何でもかんでも市民のやることに行政がくっついて支援してほしいというものではない。
- ・策定に声を発し、できた計画に対し、それを形にしていくために私たちは動きます。だから行政も支援してください。そういう対等な、お互いに認め合えるような計画というものが、やがて市民に返ってきて良い形になってくる。
- ・形にできなかったものに関しては、きちんと評価して、次年度にはこういう形でやっていこうという段階を踏んで計画は進んでいくものだと思う。
- ・「市民主導・行政支援」という考え方はまちまちだと思います。歩み寄りながら、お互いを認め合いながら形にしてやっていくのがベターだと思ったときに形をつくる、そういうやり方です。
- ・ここまでは市民が頑張るから、この部分は行政でお願いできないかということがパートナーシップだと思う。

### ○プロセスが重要

- ・たたき台は必要か  
全て市民等ではできない。しかし、たたき台前のキャッチボールが必要



A

- ・決まったことを関わる団体に話して証拠固めにするのはパートナーシップではない、あくまでも対等な関係づくりと合意形成が必要
- ・市で形を作る前に、市民と一緒に考える時間を作って欲しい
- ・新しい事業は、市民等と行政と一緒に素案をつくり、会議に出すというプロセスが必要
- ・マスコミに出ると決定だと市民は思ってしまう。その前に意見交換が必要
- ・関わっていることで知らないことが記事に出ると納得できない
- ・アンケートの取り方にしても行政と市民では違う
- ・協働ですすめてきたことについて変える時には説明が欲しい



早目の投げかけによる、議論でキャッチボールが大切

それが信頼関係を築きモチベーション向上につながる

ずくを惜しまず、時間をかけて丁寧に！



## ○キャッチボールの相手は？

- ・相手も変わっていくものではないか  
→ 新旧両方が入った方が、視点が広がる
- ・アンケート等で市民の声を拾っている場合と会議で声を聞くことの違いは？  
→ 市民の声はどこへ聞くのか。人材を見つけることが大事。

※例えばビーナチャンネル いきなり止めるというニュースが出た

市民から見ると『いきなり』になってしまうが、アンケート等も取りながら課題を検討してきた



止めることが大々的に出てしまって、なぜ止めるのか、何が足りないのかが伝わっていない。お金がかかるから止めるのではなく、違う方法で行った方が情報発信としては良いという判断を行政の方でした

時間的制約のある中、行政として効果的な行政・財政運営を考えた

## ○市民等と市のズレ

- ・ズレは行政と市民等の間だけでなく市民等の間にも発生している
  - ・「計画作りをしてきた市民等」と「一般市民」の想いにもズレが確かにある。それを議論する場があるべき
  - ・行政 ⇒ 素案は決定している訳ではない、いくらでも修正は出来る
  - ・市民 ⇒ すでに決定していることの報告ととらえる
- ↳ ここにズレがあるため、いき違いとなり、信頼関係が失われる。
- 伝え方、伝わり方が重要、情報発信し共有して**合意形成が大切**

- ・毎年の積み重ねとふりかえりができていなかった → 今後 **PDCA** サイクルで回していく

## 3 組織の活性化

- ・立ち上げのやる気  
継続のモチベーション } には温度差がある
- ・若い世代はまちづくりや行政への関心度が低い  
→ その世代を取り込む努力が必要
- ・ゆいわーくでは、若者の参画や世代間交流がスムーズに図られている団体を発題に、課題解決のヒントとなる研修、学習を行っている。そこに参加いただき、他者からの学びを取り入れる機会を活用して欲しい。

## 4 団体間の連携

---

### ○運協との連携

- ・今は運協との連携が弱いが必要だと思う。繋がった方が良い
- ・分野別の活動を運協の部会を通じて地域の方に知ってもらう機会となる  
⇒ つながりを構築することが大切
- ・地区コミュニティセンターが、地域課題に対して分野別市民ネットワークをはじめとするあらゆる主体と運協を繋げるコーディネーターとなる

### ○ゆいわーく茅野の活用

- ・連携は自然にはできないので、つなげる役割の人が必要となる  
⇒ ゆいわーく茅野では「あらゆる主体による協働のまちづくり」をスローガンに掲げ、つなげる役割を担っている
- ・連携のためには市民の自立も必要となる
- ・行政の伝える必要、市民の知る必要、お互いに伝えあえる場を創出
- ・若い職員も市民活動に関わる研修を受け、パートナーシップまちづくりについて理解する必要がある



市民等と行政職員が、同じテーブルにつき、初めて本音で意見交換できた。それにより、市民等や行政職員の考えや思いを知り、「違い」「同じ」を知ることができた

パートナーシップのまちづくり推進会議 コミュニティ運協部会意見出しまとめ

○開催経過

- |      |                       |   |     |
|------|-----------------------|---|-----|
| ①日 程 | ： 第1回 平成29年 8月22日 (火) | } | 全4回 |
|      | 第2回 平成29年 9月12日 (火)   |   |     |
|      | 第3回 平成29年10月11日 (水)   |   |     |
|      | 第4回 平成29年11月13日 (月)   |   |     |

- ②参集者 : 委員12名、運協関係者、地区コミュニティセンター所長・職員

○コミュニティ運協部会の話し合いの目的

運協が必要だという共通認識を持ち、各地区の運協活動の再スタートのキッカケとすることを目的として話し合いを重ねた。

○議論の内容（検討結果）

(1) 浮かびあがってきた論点

- ① 区は単年の区制運営を中心に活動 ⇔ 運協は中長期的な視野で活動
- ② 中長期的な視野で活動するには、役員の複数年化が必要
- ③ 区は自分の区に関する活動 ⇔ 運協は地区レベルで広域的に活動
- ④ 運協は情報・課題共有の場 ⇔ 区は実践の場
- ⑤ 運協は地区における「共助」と「市と協働」の場（プラットフォーム）
- ⑥ 地区コミュニティセンター職員がコーディネート役
- ⑦ 分野別市民ネットワークの話を地域に伝え、地域の実情を吸い上げ分野別市民ネットワークに伝える場

◆関係図で表すと

【区・自治会】	地区 CC	【地区運協】	地区 CC	【市域】
実践の場	地区 CC 職員が コー ディ ネー ト	地域の情報交換の場 地域の課題解決の協議の場	地区 CC 職員が コー ディ ネー ト	市役所各課
単年の区制運営を中心に活動		中長期的な視野で活動 (役員の複数年任期が望まれる)		分野別市民ネットワーク
自分の区に関する活動		地区レベルで広域的に活動		ゆいわーくにおける 人材バンク
		地区における共助の場 市との協働の場		

## (2) 論点から導き出された運協の機能

- ① 地域の各種団体等のプラットフォーム
- ② 地域の情報交換の場
- ③ 地域の課題解決の協議の場（共助の場）
- ④ 市との協働の場
- ⑤ 地域課題を中長期的な視野で取り組む
- ⑥ 地域と分野別市民ネットワークとの連携の場



### 運協機能を再認識し

### コミュニティ運営協議会が必要だという共通認識がもてた

## (3) 今後のとりくみ

### ① 各地区内での認識共有

- ・コミュニティ運営協議会の必要性和機能を地区内の役員や住民で共通認識持つ取り組みを進める。
- ・役員交代の際には基本的な認識共有を図り、スタートが切れるようにする。

### ② 職員（コミュニティセンター・市）間で認識共有

職員においてもコミュニティ運営協議会の機能を十分認識共有し、各施策に取り組む。地区コミュニティセンター職員がコーディネイト役として市と地域を繋ぐ役割を果たす。

### ③ 運協会長会議での情報交換

- ・各地区における地域課題への取組や活動、P D C A取組状況について情報交換の場を設けていく。  
（年度の回数については、必要に応じて開催する）
- ・課題や取組によっては地域性が同じ地区同士での情報交換や視察等も行っていきたい。

### ④ 地域でP D C Aを回す活動

- ・地域課題や取組等は毎年ふりかえりを行い、常に次につながるようP D C Aサイクルを取り入れる。

## ○ワークショップ

『パートナーシップのまちづくり』、『コミュニティ運営協議会の活動』を進める上で大切なこと

### ◇時間配分（全体で 70 分間）

○簡単な説明・個人で考える時間	10 分
○グループワーク	25 分
○発表 @2 分×7 グループ+α	20 分
○全体で小見出し（キーワード）の共有	15 分

### ◇役割

- 全体ファシリテーター（矢嶋）：最初の説明と最後のまとめ、時間管理
- グループファシリテーター及び記録  
（分野別：井出・北沢・野明、コミュニティ：小池・北澤・守屋）：グループごとの進行と小見出しの記入
- 発表者（グループの中の市民）：グループから出た小見出し（キーワード）を発表
- 記録（野明）：グループから出た小見出し（キーワード）をホワイトボードに記録

### ◇ワークショップの流れ

#### 1 このワークショップの目的と目標を全体ファシリテーターが説明します。

##### ○ 目的

###### 【分野別グループ】

当初予定したプロセスが十分に進行できず、まだ結論がまとまっていないが、推進会議として初めて市民と行政職員が対等にじっくり話をする事ができ、また、新しい委員のみなさんにパートナーシップのまちづくりについての理解を深めていただくことができた。

ここで、この到達点にいたる中であらためて各自が思った『パートナーシップのまちづくり』を進める上で大切なこと』を出し合って会議の成果として共有する。

###### 【運協グループ】

会議として「運協が必要だという認識を共有する」という目標を達成できたが、この議論を通して各自が思った『コミュニティ運営協議会』の活動を進める上で大切なこと』を出し合い、お互いの認識を共有する。

##### ○ 目標

それぞれのグループでは各自の考えを出し合い、共有するまでを目標とする。また、最後のグループ発表は、各グループで出た考えを参加者全員で共有することを目標とする。（いずれも結論はまとめない。＝発散型ワークショップ）

## 2 グループの中で役割を決めます。

- ファシリテーターは、記録（小見出しの記入）も兼務します。
- 発表者は、市民の方から決めます。

## 3 分野別グループは『「パートナーシップのまちづくり」を進める上で大切なこと』、運協グループは『「コミュニティ運営協議会」の活動を進める上で大切なこと』をポストイットに書きます。

- みなさんそれぞれが、「大切だと思う」ことを書きます。  
例：「対等な立場で対話する」「判断材料となる情報の提供」「役員の複数年任期」など
- ポストイットには、1枚につき1つの意見を書きます。
- 書く枚数は、1枚以上。たくさん書ける人は何枚書いてもOKです。
- 自分の名前も記入して下さい。

## 4 模造紙にポストイットを貼っていきます。

- 最初の方が、ポストイットに書いたことを具体的に説明しながら、模造紙に貼ります。
- その意見と同様の意見があれば、その方も説明しながら横に貼ります。  
※同じ意見でもいいので、自分の考えを説明しながら貼ります。
- 同じ意見がなくなったら、最初にポストイットを出した人の隣の方が、他に書いたことを説明しながら離れた場所に貼ります。
- 途中で思いついたこともどんどん書いて貼っていきましょう。
- 全員のポストイットがなくなるまで、これを繰り返します。

## 5 小見出しをつけます。

- ポストイットを全て貼り終わったら、それぞれのグループに小見出しをつけます。
- 小見出しは「〇〇を〇〇する」の形にしてください。  
例：「市民・職員の対等な対話を心がける」「情報は全て提供する」「役員任期を複数年化する」など
- 小見出しをつける時は、全員で確認しながらすすめます。
- 一つしかない意見を無理やり他にまとめず、一つひとつを小見出しの形にします。

## 6 空欄に、グループ全員の名前を記入してください。完成したら、パネルに貼ります。

## 7 グループごとに発表します。

- 出た意見（小見出し）を、発表者が発表します。

## 8 グループから出た意見（小見出し）を全体で共有します。

### ◇ワークショップのルール

- 参加者全員が発言。
- 人の意見を否定する発言や、批判する発言はしない。
- 全員に発言してもらうため、1回の発言は1分程度で。